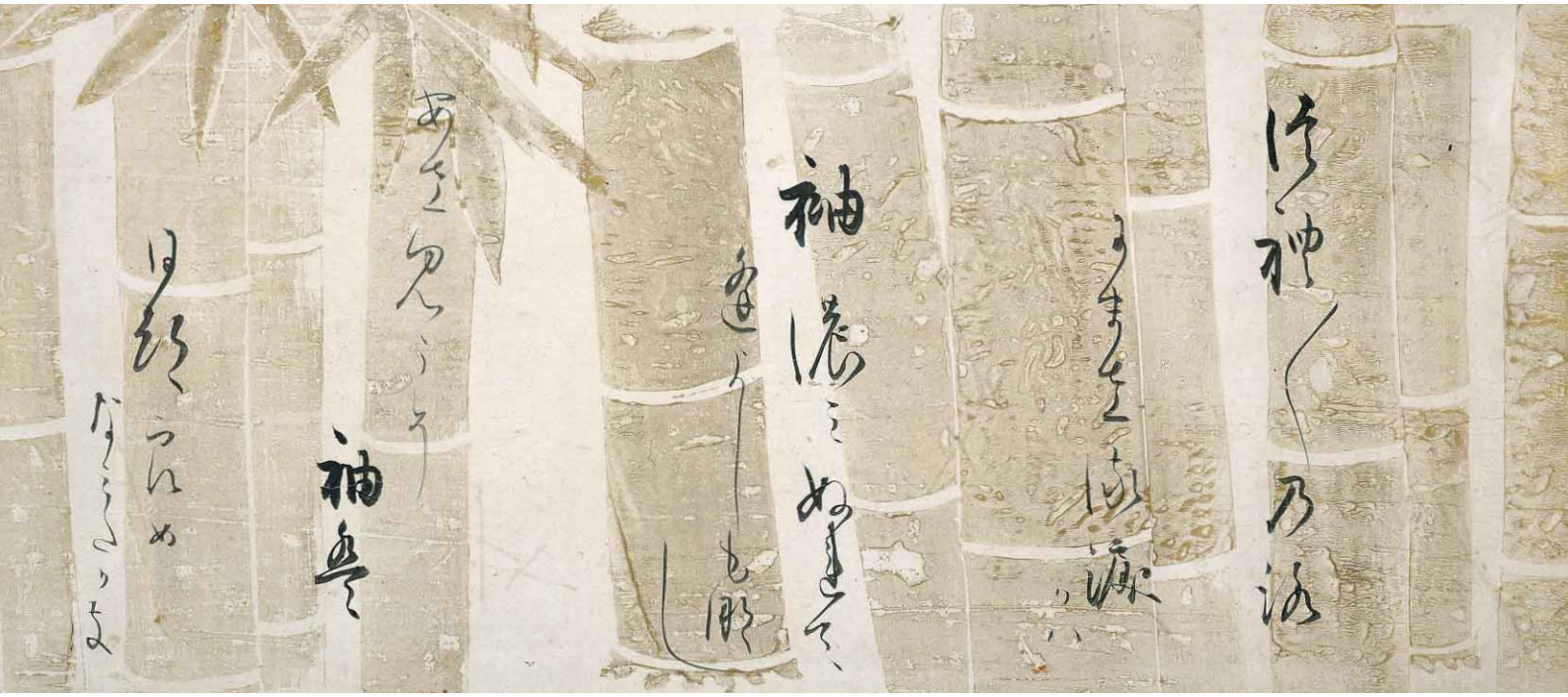
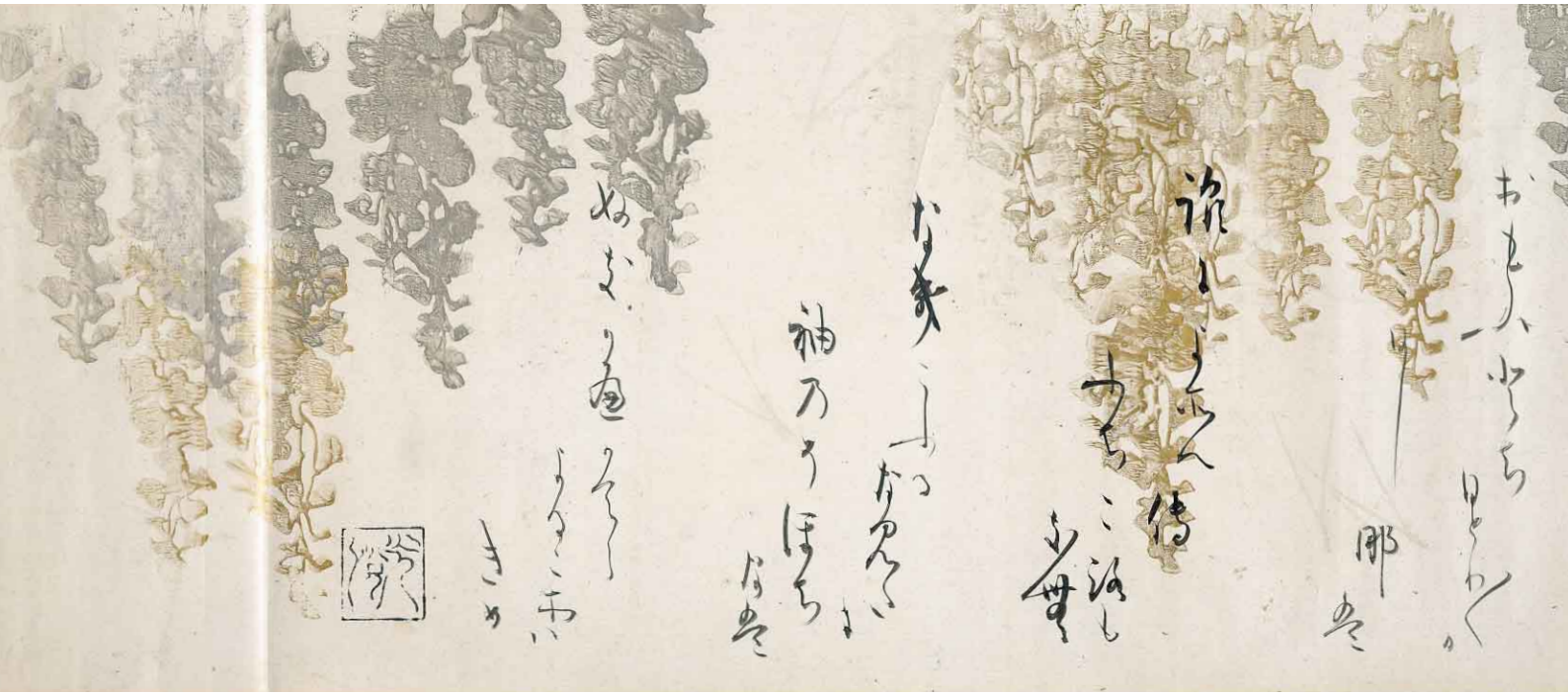
第665号　展示と催し物案内

東京国立博物館ニュース

2004
5・6
月号

平成15年度新収品 ● 2
2005年日本国際博覧会開催記念展
世紀の祭典 万国博覧会の美術 ● 4
薬師寺東京別院落慶記念 特別公開 国宝 吉祥天画像 ● 5
弘法大師入唐1200年記念 空海と高野山 ● 5
2004年度 平常展 主な作品の展示予定 ● 6
教育普及事業のお知らせ 講座・講演会／親と子のギャラリー ● 7
平常展見どころ案内 2004年5・6月 ● 8
国宝 風信帖／文化庁購入文化財展／
桃山の能書人々／特集陳列「装い」など
はくぶつかん散歩 黒門 ● 11
誌上ギャラリー・トーク17 「ものがたりの絵画」 ● 12
INFORMATION コンサート ● 14
TOPICS／Who's Who in 東博 ● 15
2004年5月・6月の展示・催し物 ● 16

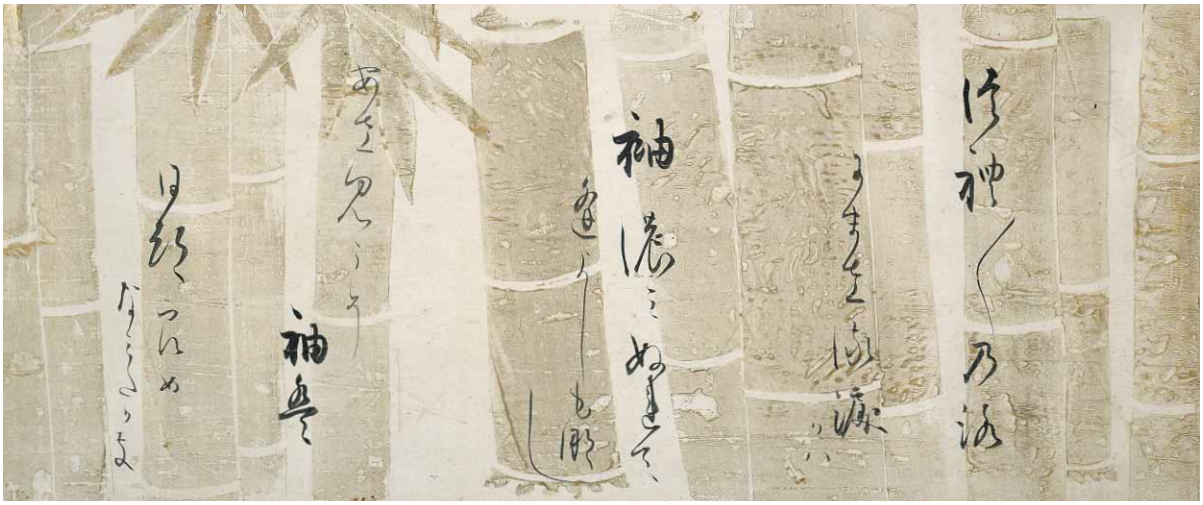




東京国立博物館の新しいたからもの 平成15年度新収品

5月18日（火）～6月27日（日）　本館特別第3室・特別第4室

博物館の活動の根幹を支えるのは優れた所蔵品であることはいうまでもありません。東京国立博物館では、毎年購入や寄贈によって所蔵品をよりいっそう充実させる努力をしています。平成15年度に新たに東京国立博物館の所蔵品となった作品のなかから主なものをご紹介いたします。



摺下絵和歌巻
本阿弥光悦筆
桃山時代・17世紀
つれづれの詠
にまさる涙がは
袖のみぬれて
逢よしもなし
あさみこそ
袖は
ひつらめ
なみだがは

料紙と書が織りなす美の世界
摺下絵和歌巻

本阿弥光悦筆

木版による金銀泥摺絵に『古今和歌集』巻十三・恋歌の六一七から六五五までの和歌を、本阿弥光悦（一五五八～一六三七）が揮毫したものです。本阿弥光悦は富裕な町衆で、刀剣の鑑定や研ぎを家職とする本阿弥家に生まれました。桃山時代から江戸時代初期にかけての能書で、近衛信尹・松花堂昭乗とともに寛永の三筆の一人として知られています。光悦の書は、平安時代の和様の書を基盤としながら、当時すでに流行していた中国・宋代の張即之や空海の書法を基とする大師流などの影響を受けた豊麗な書です。京都国立博物館蔵の「鶴下絵和歌巻」に見られるように、宗達の金銀泥装飾下絵などの意匠に調和する個性的な書を展開しました。

光悦流の摺下絵の作品は三十点ほど知られますが、これはその中でも十四メートルにも及ぶ最も長い巻物で、竹（太・細）・梅・芍薬・蝶・薄・蔦・藤と、多くの種類の版木が用いられています。この一巻は、その躍動的で肥瘦が強調された筆致が、光悦の慶長期の特徴を示すもので、貴重な自筆作品です。多彩な版木を用いた摺下絵の料紙と、光悦の美意識のもとに揮毫した和歌。まさに料紙と書と文学が織りなす美の世界といえるでしょう。

（島谷弘幸）

みみずく形の不思議な造形
土偶

埼玉県岩槻市真福寺貝塚出土

この土偶は、長野県茅野市棚畑遺跡出土の国宝の土偶（縄文のヴィーナス）といわれている）、青森県木造町亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶（当館蔵品）、群馬県吾妻町出土のハート形土偶（当館で展示）とともに著名な土偶で、しかもその中で最も古く明治三十年に発見されたものです。その顔面が木菟の顔に似ており、それが特徴的であることから「みみずく形土偶」と呼ばれているものです。それまでの胴体だけで両足の表現がないものが多かった中期の土偶と違って、手と両足をそなえた立像として作られています。しかし、全体にやや扁平で、実際には自立することはできません。頭頂部の3個の突起、あるいは庇状の突起は結髪の表現かと思われます。両耳朶には当時実際に存在した土製の耳飾を嵌入した状態の表現がみられます。上半身には沈線文や刻目文が多用され、腰から下は縄文で飾っています。全身に赤色顔料が塗彩されているのは聖なるものという意味があるようです。ほぼ完形品ですが、発見された当初は右足を欠損していて片足の状態でした。ところが、昭和のはじめ、大山史前学研究所による真福寺貝塚の発掘調査の折、その右足が発見され、本体とピッタリ接合できたのです。なお、「みみずく形土偶」は、関東地方の縄文時代後期から晩期初頭の時期にかけて作られたものです。

（松浦宥一郎）

◎土偶
埼玉県岩槻市真福寺貝塚出土
縄文時代後期・紀元前2000～1000年
愛らしい表情とユーモラスな姿が人気の土偶

＊◉は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を表します。

品格を感じさせるものがたり絵巻

伊勢物語絵巻

住吉如慶筆　詞・愛宕通福筆

在原業平の和歌を軸として成立した歌物語である『伊勢物語』が、平安時代にすでに絵画化されていたことは、『源氏物語』絵合の巻に記されていることからわかります。以後、各時代を通じて、絵巻や冊子絵、屏風絵として描かれ、定型化した図様は、蒔絵や染織のデザインとしても好まれました。

この絵巻は、近世初期の古典復興期に制作された「伊勢物語絵巻」の完本で、全一二五段の文章を詞書とし、八十場面を絵に表しています。細やかな描写とやわらかな彩色による品格ある画面は、土佐派から出て住吉派を起した住吉如慶（一五九八～一六七〇）の筆によるものです。各巻最終段にある「住吉法橋如慶筆」という署名が、寛文三年（一六六三）以降の晩年の作であることを示しています。大作で出来ばえもよいこの絵巻は如慶の代表作といってよいでしょう。詞書は公家の愛宕通福（一六三四～九九）が全巻を一筆で書き、第六巻の巻末に「左中将通福書之」と署名しています。通福は、寛文元年に左中将に任じられました。

延宝四年（一六七六）十月二十一日、将軍徳川家綱の正室であった高厳院の御遺物として津軽信寿が拝領し（『寛政重修諸家譜』）、近代まで同家に伝わったこの絵巻は、詞書の料紙まで金砂子や金泥の下絵で飾るなど、高貴な人物の注文によって作られたことを物語る豪華な装丁となっています。

（松原　茂）

伊勢物語絵巻（部分）　絵・住吉如慶筆　詞・愛宕通福筆　6巻　江戸時代・17世紀
全125段を詞書に、80場面を美しい絵にした完本。豪華な装丁にも注目

桃山の意匠

片身替釉茶碗 銘 深山路

片身替釉とは茶碗に藁灰釉と飴釉という二つの釉薬を掛け分けにしていることを言います。器面を大胆に二分割する片身替の意匠構成は、桃山時代に染織や漆工などで流行したもので、陶磁では美濃で織部の意匠構成として盛んに用いられていました。

この茶碗は片身替の意匠構成といい、三角形に近い形に歪んだその造形といい、桃山時代の作風が色濃く現れています。高台は四方に切り込みを入れて切高台とし、その内側には「壬」の字が刻まれています。同様の銘の入った「王」字銘ともいわれる茶碗が数碗伝世しています。

この茶碗の内箱の蓋には「万多ら唐津」という箱書があります。これは斑唐津のことで、かつてはこの茶碗が釉調から斑唐津に分類され、唐津で焼かれたものと考えられてきたことがわかります。しかし現在ではこの茶碗は唐津ではなく高取で焼かれたことがわかっています。高取には慶長十九年（一六一四）開窯の内ケ磯窯（福岡県直方市）という窯があり、遠州好みといわれる高取茶人の優品を焼いたことで知られています。この窯の発掘調査の際、「壬」銘のある同様の釉調の茶碗が出土したことから、この茶碗が高取焼であることが明らかとなったのです。

また、内箱蓋裏の貼札から近代の数寄者として知られる森川如春庵旧蔵とわかります。

（伊藤嘉章）

片身替釉茶碗　銘 深山路　高取
桃山～江戸時代・17世紀
「壬」銘　森川如春庵旧蔵
桃山時代の大胆で自由な作風

不老長寿を願う吉祥図

鹿鶴図屏風

沈銓筆

沈銓（字は衡斎、号は南蘋）は中国・清時代前期の画家。浙江省呉興の人。清初に胡湄（字は飛涛、号は晩山）という文人画家がいましたが、その入室の弟子といわれ、花鳥画をよくしました。享保十六年（一七三一）十二月に弟子の高鈞、高乾とともに来日し、享保十八年（一七三三）九月に帰国したといわれます。沈銓が長崎に滞在中、唐通事の家系の熊斐は、直接、沈銓に師事し、その花鳥画を学んだといわれます。濃彩色による沈銓の花鳥画は、当時、中国で流行していた新しい惲寿平の花鳥画に比べるとやや古様な明の呂紀風を残すものでしたが、その画風は長崎の熊斐、京阪の鶴亭、江戸の宋紫石などを通して、江戸時代の日本画壇に大きな影響を与えました。その作品は本国よりも日本で珍重され、沈銓は帰国後も日本からの求めに応じて作品を制作したといわれます。

このたび山崎家から寄贈されたこの作品は当館に久しく寄託されていた作品ですが、日本に現存する沈銓の代表作の一つとして広く知られている作品です。沈銓は長寿、子孫繁栄、富貴、立身出世など福、禄、寿の願いを花鳥に託して描く吉祥図をよく描きました。本図も吉祥図の一つで、向かって右隻には水辺の土坡の柏樹の下に十頭の鹿、左隻には水際の断崖に根をはる松樹と岩上に九羽の鶴、桃樹、長春花（庚申薔薇）、菊、霊芝など不老長寿を寓意する事物が描かれています。中国では「鹿鶴同春」、「松柏同春」などと題されるもので、夫婦の不老長寿の願いがこめられています。款記より乾隆四年（一七三九）五月、沈銓五十八歳の作品です。

（湊　信幸）

鹿鶴図屏風（部分）　沈銓筆
清時代・乾隆4年（1739）山崎達夫氏寄贈　鶴、桃樹、長春花（庚申薔薇）、菊、霊芝などは不老長寿を願う吉祥のモチーフ

2005年日本国際博覧会開催記念展

「世紀の祭典 万国博覧会の美術」

～パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品～

19世紀後半、パリ・ウィーン・シカゴと華やかな都市を舞台に、世紀の祭典・万国博覧会が開催されました。万博は日本の工芸に、西洋の絵画に、大きな影響を及ぼしました。西洋と東洋の劇的な出会いの場―万国博覧会と美術の足跡をたどる展覧会です。

七宝桜花群鶏旭日文大香炉　塩田真、荒木寛保、織田杏斉、塚本儀三郎、林喜兵衛、杉浦行宗合作　1893年シカゴ・コロンブス世界博覧会出品　個人蔵（山梨・昇仙峡ロープウエイ七宝美術館寄託）
巨大な七宝の香炉。シカゴ・コロンブス世界博覧会に出品された日本の工芸で最も注目された作品のひとつ

「バンパク」がやってくる。ある年代から上の方は「大阪万博　太陽の塔」を思い出されることでしょう。二〇〇五年、あの「バンパク」が再び日本にやってきます。愛知県で開催される二〇〇五年日本国際博覧会を記念して、「世紀の祭典 万国博覧会の美術」を開催いたします。

一八五一年、人類の英知を結集し、文明の到達点を示すという万国博覧会がロンドンで初めて開催されました。以後、万博は世界各地で開催され、十九世紀後半は「万国博覧会の時代」といわれています。まだ江戸時代であった一八六七年（慶応三年）、パリ万国博覧会に幕府、薩摩藩、佐賀藩が初めて参加、一八七三年のウィーン万国博覧会では日本というひとつの国として参加し、日本も万国博覧会の時代に突入していきました。

この展覧会では、十九世紀後半から二十世紀初頭にかけての時代を三つのテーマでご紹介します。第一のテーマでは、万博を通しての東西の出会いに注目します。明治前期、技の粋を尽くした日本の工芸は西洋で驚きをもって迎えられ、西洋からは新しい技術・様式が日本へもたらされます。さらに日本の古美術としての工芸が西洋に紹介され、新たな衝撃を与えていくという東西文化の交流の姿をご紹介します。

第二のテーマは、明治後半に焦点をあてました。輸出品としての工芸から一八九三年のシカゴ・コロンブス世界博覧会では日本の美術の水準を世界に問うものとしての役割が工芸に与えられます。一方で、二十世紀に向けて世界の工芸はアールヌーボーに代表される新しい時代を迎えようとしていました。日本の工芸もある分野ではその影響を強く受け、ある分野ではそれとは一線を画した動きを示します。工芸が多様化していく時代をご紹介します。

第三のテーマは西洋の美術と万国博覧会です。西洋美術の中で万国博覧会が果たしてきた「美の祭典」としての役割に迫ります。一八五五年のパリ万国博覧会で開かれたアングル、ドラクロワといった巨匠達の回顧展、その一方でロダンらが万博に対抗するように行った会場外での個展。数回開催されたパリ万博を中心に、万博という存在が西洋美術の中に占めた位置に迫りつつ、一九〇〇年パリ万博に並んだティファニーやガレによる美術工芸品などを併せて配し、コンパクトに凝縮された「万博と美術」の鳥瞰図を織り上げます。

（伊藤嘉章）

綴織日光祭礼図　川島甚兵衛作　1893年シカゴ・コロンブス世界博覧会出品
シカゴフィールドミュージアム蔵　シカゴ・コロンブス世界博覧会では日本工芸が初めて万博の美術館に展示された。この巨大なタピストリーもそのひとつ

「万国博覧会の美術」展関連事業

〈夏期講座〉

「万国博覧会の美術」

日　程　2004年7月17日（土）・7月18日（日）の2日間

第1日目　2004年7月17日（土）13：15～16：30

第1講　「日本の〈美術〉と明治期の万国博覧会」
講師：宮内庁三の丸尚蔵館 学芸室主任研究官　大熊敏之氏

第2講　「万国博覧会に見る日本七宝」
講師：名古屋市博物館 学芸員　小川幹生氏

第2日目　2004年7月18日（日）13：00～16：10

第1講　「明治漆工の二相―産業からArtへ、Artから産業へ」
講師：大阪市立美術館 学芸員　土井久美子氏

第2講　「万国博覧会を飾った金属作品」
講師：東京芸術大学 大学美術館助教授　横溝廣子氏

申込先　〒110-8712　台東区上野公園13-9
東京国立博物館教育講座室「夏期講座係」まで
締　切　2004年7月2日（金）必着
参加費　1000円（テキスト代を含む、当日徴収）

〈記念講演会〉

第1回　2004年7月24日（土）
「万国博覧会の中の西洋美術―パリ万博を中心として―」
講師：美術史家　高橋明也氏

第2回　2004年8月14日（土）
「万国博覧会と日本工芸―東西が出会った―」
講師：当館平常展 室長　伊藤嘉章

参加費　無料（ただし特別展観覧券が必要）
申込先　〒110-8712　台東区上野公園13-9
東京国立博物館教育講座室「万博展講演会係」まで
締　切　第1回　2004年7月9日（金）必着
第2回　2004年7月30日（金）必着

■ 申込方法（事前申込）　官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・住所・名前・電話番号・年齢・講演会の場合は希望日、「返信用表面」に、郵便番号・住所・名前を明記して上記まで申し込みください。

※1枚の往復はがきで、1人のみ申し込み可能（講演会は各回ごとの申し込み）。
※応募多数の場合は、抽選のうえ受講券（1枚で1人受講可）を送ります。

2005年日本国際博覧会開催記念展
「世紀の祭典 万国博覧会の美術」
～パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品～
2004年7月6日(火)～8月29日(日)　東京国立博物館　平成館

主　催　東京国立博物館　NHK　NHKプロモーション
日本経済新聞社　大阪市立美術館　名古屋市博物館
共　催　財団法人2005年日本国際博覧会協会
後　援　経済産業省　文化庁
◆巡回予定　2004年10月5日（火）～11月28日（日）大阪市立美術館
2005年1月5日（水）～3月6日（日）名古屋市博物館

薬師寺東京別院落慶記念
特別公開　国宝 吉祥天画像

表慶館に舞い降りた天平の美人。気品あふれる華麗な姿をぜひお見逃しなく

奈良・西ノ京の薬師寺は、奈良六大寺の一つに数えられる名刹としてよく知られています。天武天皇の発願で、持統天皇が藤原京内に六八八年頃に建立したと推定されますが、和銅三年（七一〇）の平城京遷都に合わせて現在地に移り、新たに伽藍が構えられました。

薬師寺では昨年秋に東京・五反田に東京別院を落慶しましたが、東京国立博物館と薬師寺ではこれを記念して、天平美人を彷彿させる古代名画として有名な「国宝 吉祥天画像」を特別公開することになりました。現存する奈良時代の礼拝仏画は、この画像とアメリカ・ボストン美術館の法華堂根本曼荼羅の二件のみで、傷みの著しい後者に比べて保存状態が良好なことも貴重です。天平の名画を見る絶好の機会といえるでしょう。（金子啓明）

◉吉祥天画像　奈良時代・8世紀　奈良・薬師寺蔵
ふっくらした頬、くっきりと描かれた眉は唐の美人画に通じる表現

薬師寺東京別院落慶記念
特別公開　国宝　吉祥天画像

7月27日（火）～8月22日（日）　東京国立博物館　表慶館

主　　催：東京国立博物館　薬師寺
＊平常料金でご覧いただけます
　一般420円（210円）、大学生130円（70円）。（　）内は20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者１名は無料です。障害者手帳などをご提示ください
＊高校生以下、満65歳以上の方は無料です。年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください

弘法大師入唐一二〇〇年記念
空海と高野山

密教美術の大展覧会、いよいよ会期後半に　本館では空海と高野山ゆかりの名品も展示

空海と高野山をめぐる仏教美術が一堂に会した展覧会「空海と高野山」展を5月16日まで開催中です。

空海自筆の聾瞽指帰（国宝）、空海が唐から日本に向かって投げたという伝説をもつ金銅三鈷杵（重文）、空海所持の諸尊仏龕（国宝）という高野山の三大秘宝のほか、鎌倉時代の名仏師・運慶の八大童子立像（国宝）がすべて揃うなど、話題には事欠きません。

会期後半のみどころはなんといっても国宝の仏涅槃図でしょう（4月27日～5月16日展示）。現存最古の、もっとも優れた涅槃図として著名な作品です。まず縦二六七センチ、横一七一センチという大画面に圧倒されることでしょう。今回この展覧会に際して東京文化財研究所による超高精細デジタル画像撮影、赤外線撮影、蛍光エックス線撮影などの調査が行われ、その鮮明な画像も会場で紹介します。諸尊の優美な姿態と表情、精緻な截金文様などじっくりとご覧ください。

また、本展覧会にあわせて、本館では空海自筆の「風信帖」（国宝 教王護国寺蔵　5月23日まで本館第12室）、特集陳列「高野山天野社伝来の仮面と装束」（5月16日まで　平成館寄贈品展示室）、特集陳列「密教法具」（6月30日まで本館第4室）、新発見の運慶の大日如来坐像（個人蔵　6月30日まで本館第8室）の関連企画もあります。ぜひご覧ください。

◉仏涅槃図（部分）　平安時代　和歌山・金剛峯寺蔵
中間色を主体としたおだやかで柔らかい色使いにも注目

弘法大師入唐１２００年記念　空海と高野山
4月6日（火）～5月16日（日）　東京国立博物館　平成館

主　　催：東京国立博物館　高野山真言宗総本山金剛峯寺　財団法人高野山文化財保存会　NHK　NHKプロモーション
後　　援：文化庁
特別協賛：南海電気鉄道株式会社
協　　賛：日本写真印刷株式会社　三井住友海上火災保険株式会社　株式会社アーテファクトリー
協　　力：日本通運　セラーテムテクノロジー
制作協力：NHKきんきメディアプラン
観 覧 料：一般1300円（950円）、大学生900円（510円）、高校生800円（450円）、小・中学生無料　（　）内は、20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください
◆巡回予定　10月9日（土）～11月23日（火・祝）　和歌山県立博物館

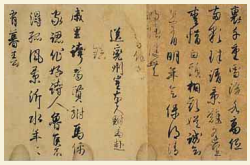
2004年度 平常展 主な作品の展示予定

国宝室展示予定　本館第12室（9月以降は本館第14室）

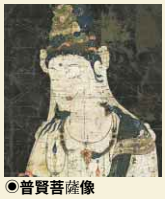
4/13(火)〜5/23(日)	◉風信帖 空海筆 平安時代・9世紀 京都・教王護国寺蔵
5/25(火)〜6/30(水)	◉十六羅漢像 第13・14尊者 平安時代・11世紀
9/1(水)〜10/11(月)	◉普賢菩薩像 平安時代・12世紀
10/13(水)〜11/21(日)	◉鳥獣人物戯画巻 甲巻 平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵
11/23(火)〜12/26(日)	◉華厳祖師絵伝 元暁絵 巻上 鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺
1/2(日)〜2/13(日)	◉白氏詩巻 藤原行成筆 平安時代・寛仁2年(1018)
2/15(火)〜3/27(日)	◉伝藤原光能像 鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵

◉風信帖

◉鳥獣人物戯画巻 甲巻


◉白氏詩巻

◉十六羅漢像


◉普賢菩薩像

◉華厳祖師絵伝 元暁絵 巻上

◉伝藤原光能像

そのほかの主な作品の展示予定

4/13(火)〜5/23(日)	寸松庵色紙 伝紀貫之筆 平安時代・11世紀
4/20(火)〜5/30(日)	◎西行物語絵巻 俵屋宗達筆 江戸時代・17世紀 個人蔵
5/11(火)〜6/30(水)	◉八橋蒔絵螺鈿硯箱 尾形光琳作 江戸時代・17〜18世紀
9/1(水)〜10/3(日)	◉平治物語絵巻〈六波羅行幸巻〉 鎌倉時代・13世紀 松平直亮氏寄贈
9/1(水)〜10/11(月)	◉楼閣山水図屏風 池大雅筆 江戸時代・18世紀 団伊能氏寄贈
9/1(水)〜11/14(日)	◉片輪車蒔絵螺鈿手箱 平安時代・12世紀
9/1(水)〜12/12(日)	◎青磁茶碗 銘 馬蝗絆 南宋〜元時代・12〜13世紀 三井高大氏寄贈
10/5(火)〜10/31(日)	◉紅白芙蓉図 李迪筆 南宋時代・慶元3年(1197)
10/13(水)〜11/21(日)	◉鷹見泉石像 江戸時代・天保8年(1837)
11/16(火)〜12/19(日)	大燈国師上堂語 一休宗純筆 室町時代・15世紀
11/23(火)〜12/26(日)	神輿振 前田青邨筆 大正時代・20世紀
12/14(火)〜3/13(日)	◎獅子螺鈿鞍 鎌倉時代・13世紀
12/21(火)〜2/6(日)	◎松下達磨図 一山一寧賛 鎌倉時代・14世紀
1/2(日)〜2/13(日)	○立姿美人図 喜多川歌麿筆 江戸時代・18世紀 個人蔵
2/15(火)〜3/27(日)	日本武尊 青木繁筆 明治39年(1906)

◉八橋蒔絵螺鈿硯箱

◉平治物語絵巻〈六波羅行幸巻〉

◉片輪車蒔絵螺鈿手箱

◉紅白芙蓉図

◉鷹見泉石像

大燈国師上堂語

◎松下達磨図

◎獅子螺鈿鞍

○立姿美人図

日本武尊

※一部の図版は部分です

教育普及事業のお知らせ

講座・講演会

■月例講演会

毎月1回、当館の平常展に関連した講演会を開催します。

5月15日（土）13時30分～15時（13時開場）
国際博物館の日記念講演会
「博物館の展示とデザイン―世界と日本の違いから」
デザイン室主任研究員 木下史青

6月12日（土）13時30分～15時（13時開場）
「アイヌ文化史入門」
文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官 佐々木利和氏

7月31日（土）13時30分～15時（13時開場）
「大谷探検隊の足跡」国際交流室長 臺信祐爾

8月21日（土）13時30分～15時（13時開場）
「広開土王碑をめぐる諸問題」列品課長 谷 豊信

9月25日（土）13時30分～15時（13時開場）
「宋時代の彫漆」副館長 西岡康宏

会場：平成館大講堂　定員：380名（先着順）
聴講無料（ただし、入館料は必要です）

■テーマ別講演会

当館の平常展示に関連した共通テーマによる連続の講演会です。

「日本の水墨画」（全4回）

第1回　5月29日（土）13時30分～15時（13時開場）
「初期水墨画から詩画軸」正木美術館主任学芸員 高橋範子氏

第2回　6月26日（土）13時30分～15時（13時開場）
「周文から雪舟」平常展室主任研究員 救仁郷秀明

第3回　8月28日（土）13時30分～15時（13時開場）
「桃山江戸初期の水墨画―狩野派を中心に」
教育講座室長 田沢裕賀

第4回　9月11日（土）13時30分～15時（13時開場）
「水墨画の変容―文人画と写生画」
北海道大学大学院文学研究科助教授 鈴木幸人氏

会場：平成館大講堂　定員：380名（先着順）
聴講無料（ただし、入館料は必要です）

■夏期講座

「万国博覧会の美術」
7月17日（土）・18日（日）
※詳しくは本誌4ページをご覧ください。

■公開講座

一つの専門的テーマを深く掘り下げる連続の講義です。

「日本美術人物列伝シリーズ（中世編）」

第1回　6月2日（水）
「運慶」教育普及室長 山本 勉

第2回　6月17日（木）
「雪舟」東京文化財研究所情報調整室研究員 綿田稔氏

第3回　6月30日（水）
「土佐光信」成城大学文芸学部教授 相澤正彦氏

時間：14時～15時30分（90分間）
会場：資料館2階セミナー室
聴講無料
定員：60名（定員超過の場合は抽選となります）
※原則として連続3回聴講

申込方法：
官製往復はがきに①氏名（かならずふり仮名をふってください）
②住所　③電話番号　④年齢をご記入の上、
下記まで郵送してください
※1枚のはがきで１人、全3回の申し込みとなります
締　　切：2004年5月21日（金）必着
申 込 先：〒110-8712　台東区上野公園13-9
東京国立博物館教育講座室

■列品解説

展示室で研究員による作品や展示テーマについての解説を行います。
原則として毎週火曜日14時から
※日程、テーマの詳細は本誌16ページ展示・催し物をご参照ください。

親と子のギャラリー

小・中学生のみなさんに美術や歴史の面白さ、博物館の活動について楽しく知っていただく催しとして実施してきた「こどもミュージアム」が、今年度から「親と子のギャラリー」と名前をあらためて、バージョンアップ。2004年度は恒例の夏休み企画に加えて、昨年に引き続き「博物館ってどんなところ？」シリーズとほかにもうひとつ、あわせて3つ企画を予定しています。ご家族で、また学校の総合学習の時間などでのご来館をお待ちしています。もちろん、お子さん一人でも大歓迎。

■文字・もじ・モジ

7月17日（土）～8月29日（日）東洋館地下

文字は生活の中で身近なものなのに、それをあらわした書跡作品、いわゆる「書」はむずかしい印象があって、こどもや一般の方には敬遠されがちです。この夏休み展示では、書跡を中心に、文字を書いた工芸・考古遺物などを解説パネルとともに展示して、文字の世界とそれを見たり書いたりする楽しさに出会っていただこうと思います。ワークショップ「文字と遊ぼう」を併催。

■博物館ってどんなところ？：宝もの編

11月9日（火）～12月26日（日）　平成館１階企画展示室

博物館には文化財という名の宝ものがいっぱい。「国宝」もあります。でも、その種類はたくさんあり、大きさやかたちもいろいろです。作られた頃から有名な文化財もある一方で、昔は忘れられていて、研究者が新しい生命をあたえたものも少なくありません。この展示では博物館で保管する文化財のさまざまなジャンルやかたち、おもしろいエピソードを、実作品と写真パネルで解説して、博物館を身近に感じていただこうと思います。

■仏像のひみつ

平成17年1月12日（水）～3月6日（日）　平成館１階企画展示室

博物館には全国の寺院からお預かり、あるいはお借りした、たくさんの仏像が展示室にならんでいます。でも、こどもや初めて見る方にとって仏像はなかなかなじみにくいもの。そこでこの展示では、仏像彫刻のとびきりの秘密を、実物・模型・パネルでやさしく解説します。「国宝 鑑真和上像と盧舎那仏展」と同時開催。

これだけは見逃せない！
おすすめの
この1点

国宝　風信帖

「空海と高野山」展にあわせて 空海から最澄に宛てた真筆の書状を公開

4月13日(火)～5月23日(日)　本館第12室　国宝室

「風信雲書、天より翔臨す」ではじまる弘法大師空海の書状『風信帖』は、一巻に三通が収められ、それぞれ書き出しから「風信帖」「忽披帖」「忽恵帖」と呼ばれます。「風信帖」は伝教大師最澄に宛て、空海・最澄・室山の三名で仏法の重要な教義を語り合うため、神護寺までの来訪を要請する内容です。続く「忽披帖」は、御香二裹と左衛士督（藤原冬嗣）の書状をすでに謹んで拝受したことと、法会が迫りその御礼が滞ったことを述べ、法会が済んだらお会いしたいというもの。三通目の「忽恵帖」は、御香の御礼と法会が終わったら最澄のもとを訪ねる旨と、『仁王経』は備講師が持ち去ってしまったので自ら取戻して持参する旨が記されます。宛所に、一通目では東嶺金蘭、三通目では止観座主（ともに最澄への敬称）と書かれ、二通目は宛名こそないものの、弘仁三（八一二）、四年頃の両者の交流を生々しく伝えて貴重なものです。

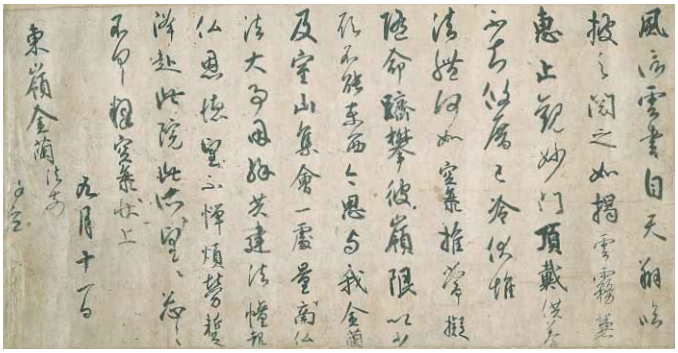
さて、自筆とその写真とでとくに私が隔たりを感じる点に、筆勢と墨色があります。この点こそ、当館の書跡展示の眼目の一つかと考えます。ことに『風信帖』ではその隔たりが大きく、生身の手から生まれた筆跡は、それとじかに接する人間の肉眼でしか感じられぬ何かを深く秘めているように思われます。肉眼で『風信帖』の文字を筆順どおりに追ってゆくと、いつの間にか紙奥から文字が浮かび上がるかに見えてきます。それは、一字のなかでの起筆と終筆の角度（筆の入る角度と出る角度）が垂直かそれに近い例がわりと多く見られ、加えて、送筆（起筆と終筆の間）の筆づかいに回転運動が多く見られることが理由として考えられます。ちなみに、空海筆の国宝『金剛般若経開題』にもこの傾向が顕著に認められます。

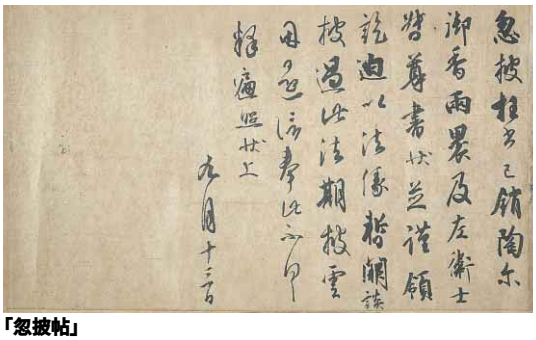
さて、ここで、筆で書く上で切り離せない、筆勢と墨色に注目してみましょう。日常の筆記具、特にボールペンは、我々の手から筆勢や墨色が縁遠くなったことを端的に示しています。本来、筆勢とは、文字を書く筆者の手の動きそのものです。筆は、紙上で天地左右に運ばれるとき、必ず上下の動き（高さ）を伴います。加えて、筆管を握る手の角度や速度に応じて、筆先はあらゆる向きで紙と接して線を生み、墨の潤から渇への変化が線に多彩な色と多様な質を生じさせます。したがって、肉眼で筆の跡を追うと、筆者が筆をとって過ごした時間とそこでの出来事が、封じ込められていることに気づきます。つまり筆勢は文字に宿る精彩のことといえ、墨色は気持ちの躍動そのものといえます。筆勢は線の上のみならず、筆が紙から離れているときにも同様に生じており、目に見えない筆勢を見るとき「書風」という言葉が浮かびます。

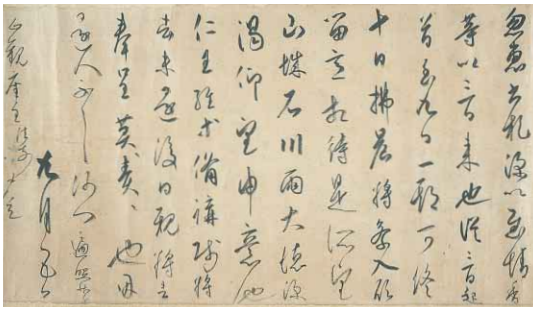
ついで、「墨に五彩あり」とは近くは横山大観の言葉として知られますが、古くは「墨を運して五色は具わる」との記述が中国・唐時代の画論に見られます（張彦遠『歴代名画記』巻二）。五彩とは赤・青・黄・白・黒を指し、私は、五彩を兼ねた事例の一つに空の景色があげられるかと思います。本来透明で、一日また一年のうちに多彩多様に変化する空は、山水を描いた水墨画では大気の質感さえも描かれ、墨の五彩を感じさせてくれます。したがって、筆勢は大気の流れ（風）にほかならず、墨色は文字にこめられた言葉の輝きと形容できるかと思います。

最後に、『風信帖』三通はそれぞれ書法・筆勢・墨色が同じではありません。「風信帖」は三通の中では中庸的な行書で、白と灰色に満ちた空に湿潤な大気の移動を思わせる筆勢と墨色。「忽披帖」は楷書の意が濃厚な行書で、透明度の高い秋の茜空を思わせる墨色。「忽恵帖」は草書の意が濃厚な行書で、天高く流れる白雲の勢いを思わせる筆勢。三通三様の書風は、紛れもなく空海一人の手になるところが驚きです。ぜひとも肉眼で見て、さまざまに『風信帖』の空をイメージしていただければ幸いです。

（丸山猶計）


「風信帖」


「忽披帖」


「忽恵帖」

空海筆　平安時代・9世紀　京都・教王護国寺蔵
真言宗の祖・空海から天台宗の祖・最澄に宛てた3通の手紙。「三筆」としても有名な空海は、唐に渡り、書聖・王羲之をはじめ古今の名跡を吸収し、その後の日本の書の方向づけに多大な影響を及ぼし続けている

■浮世絵版画■

初夏に向かう江戸の暮らし
鳥居清長「子寶五節遊・端午」など

4月20日(火)～5月16日(日)　本館特別第1室

浮世絵は現代の私達に、江戸の人々のさまざまな風俗を伝えていますが、今回の展示では、初夏に向かう暮らしぶりを、テーマのひとつとしています。鳥居清長の「子寶五節遊・端午」では、大小の幟の前ではしゃぐ、元気な少年達が描かれています。磯田湖龍斎の柱絵「亀戸太鼓橋」は、藤の花を背景に、亀戸天満宮の太鼓橋の上から鯉に餌をやる子供や少女達を描いたもので、細長い画面の特色をいかした構成となっています。こうした人物を主題にした作品とともに、「浮絵」と呼ばれる、西洋の透視図法に学んだ、奥行や距離感を強調した、歌川豊春の「浮絵見廻之図」、奥村政信の「浮絵朝鮮人行列図」などを展示します。浮世絵の多彩な表現をお楽しみください。　（玉蟲玲子）

子寶五節遊・端午　鳥居清長筆　江戸時代・18～19世紀
5月5日、端午の節句の遊びを描く

■彫刻■

初公開の十一面観音像に注目
小特集
「川端龍子遺愛の仏たち」

4月6日(火)～6月30日(水)　本館第8室

日本画家の故川端龍子氏が収集した四体の仏像を展示します。納入品から応保二年（一一六二）に造られたことが判明する毘沙門天像（当館蔵）は、彩色や截金文様が美しいことで有名な作品です。その他の三体（東京・大田区蔵）は今回初めて公開される作品で、なかでも十一面観音菩薩像は、制作が奈良時代に遡る木心乾漆造りの貴重な作品です。顔や腕の細かなひび割れは、漆と木の粉を混ぜた木屎漆を厚く盛り上げた部分が乾燥したためです。この像を目にしたとき、どことなく違和感をおぼえた方がいらっしゃるかもしれません。通常菩薩像がまとっている左肩から右脇腹にかかる条帛とよばれる布がない、珍しい作例です。このほか、帝釈天像は十一世紀初めの、不動明王像は十二世紀の、美しい平安彫刻です。　（丸山士郎）

十一面観音菩薩立像
奈良時代・8世紀　東京・大田区蔵
すらりとした姿態が美しい観音像

■工芸■

神秘のかたち
特集陳列
「密教法具」

3月30日(火)～6月30日(水)　本館第4室

平安時代初めに空海、最澄らによってもたらされた密教では、それまでの奈良時代の仏教とは異なる独特の修法具を使用しました。それが密教法具で、平安時代から鎌倉時代にかけて、密教隆盛にともなって、多くの優品が作られました。密教の修法に加持祈祷がありますが、そこで用いられる法具は、その特異な造形から霊験あらたかな力をもつものと信じられました。もともと密教法具は古代インドの武器から転化したと考えられ、金剛杵や輪宝、羯磨は鋭い突起や刃をもっていますが、それは煩悩の敵をのぞくことを象徴し、また、金剛鈴はその音によって仏菩薩を喜ばせ、人の眠れる仏性を覚醒させると意味付けされています。ほの暗い堂内で行われる修法の宗教的雰囲気は、往時の人々にとってまさに神秘そのものであったでしょう。この特集陳列では、こうした密教の神秘的なさまざまな形を紹介いたします。　（原田一敏）

◎金銅三昧耶五鈷鈴
平安時代・12世紀　東京・護国寺蔵
鈴の胴に、仏の持物や印相で仏を象徴した三昧耶形を表した鈴。鈷が鋭く、本来の武器の形をよく留めている

■文化庁購入文化財展■

国の宝物を守るために

新たな国民のたから―くらしと祈り

5月25日(火)～6月27日(日)　平成館寄贈品展示室

昨年に引き続き、二回目の文化庁購入文化財展となります。今年は「くらしと祈り」をテーマに展示を構成いたします。

国（文化庁）は、文化財保護法の定めるところにより、文化財が海外へ流失するのを防ぐために、また、文化財の保護に万全を期するために、所蔵者が有償で譲渡しようとする場合には優先的に買い取る権利があります。購入した文化財は、従来は国立博物館などへ移管してまいりましたが、国立博物館が独立行政法人となった今は、そうしたことはできなくなり、文化庁も文化財を保管、活用しているのです。今回も平成十三年度以降に購入した作品を中心に展覧会を開催いたします。

（佐々木利和）

主な展示作品

〈くらし〉
紙本著色大原御幸図
紙本著色酒飯論絵巻
◎彩牋墨書大和物語
◎色絵若松図茶壷（仁清作）

〈祈り〉
木造雲中供養菩薩像
◎紙本墨書三戒経
◎筑前国筑紫郡宝満山経塚出土品

木造雲中供養菩薩像
平安時代・12世紀
平等院鳳凰堂の雲中供養菩薩像に類似する比丘形像

■桃山の風■

奔放自在な書の展開

桃山の能書人々

5月11日(火)～6月30日(水)　本館第17室

室町時代から戦国時代にかけて京の文化は地方に伝播し、多くの享受層に広がりを見せました。書においては、伝統を重視した型にはめての鍛錬に終始したので、画一的な、いわゆる"書流"の書が定着していきました。続くこの桃山時代は、異質なヨーロッパ文化との出会いなどもあり、わが国でも珍しいほど造形活動が多彩な時代であったといえるでしょう。

書の世界では、近衛信尹、本阿弥光悦、松花堂昭乗の寛永の三筆に代表される人々が意欲的な創作活動を展開しました。名門公家の出自の信尹は、生来の覇気を書に表現した鮮烈な書風を確立しました。光悦は平安時代の和様の書を基盤としながらも、中国宋の張即之や大師流などの影響を受けた豊麗な書風を築き、宗達の金銀泥装飾下絵などの意匠に調和する個性的な書を展開しています。昭乗は唐海の大師流をもとに、穏健で着実ながらも文字の最終画に装飾的な技法を駆使した作品を残しました。斬新で奔放自在なこれらの書は、伝統を墨守していた書の世界に、新たな息吹をもたらして、多くの人に迎えられました。このほか、後陽成天皇など、この時代の気風を受けた書の数々をご覧いただきます。

（島谷弘幸）

蓮下絵和歌巻断簡　本阿弥光悦筆　桃山時代・17世紀
光悦と宗達コンビが織りなす書画の世界

■歴史資料■

江戸のビューティー読本

特集陳列「装い」

6月1日(火)～6月30日(水)　本館第19室

外観や身なりなどを美しく飾りととのえる「装い」が今回のテーマです。その方法はさまざまですが、江戸時代、装身行為の一つである化粧は、歌舞伎や浮世絵、版本などを主な媒体として流行しました。たとえば『都風俗化粧伝』は、百年以上にわたって女性に愛読されたロングセラーです。内容は、顔や手足・髪の手入れ、眉や目などの化粧、帯の結び方、歩き方、紅・白粉などの化粧品の製法から、なで肩に見せる方法にまで及んでいます。身だしなみのすべてを含む意味が化粧に込められていたのです。展示では、『当世化粧容顔美艶考』『化粧眉作口伝』をはじめとする多様な「装い」の世界をご覧ください。

（高橋裕次）

都風俗化粧伝　江戸時代・文化10年（1813）
ロングセラーの美容読本より。なで肩に見せるきものの着方

都風俗化粧伝　江戸時代・文化10年（1813）
ロングセラーの美容読本より。なで肩に見せるきものの着方

■考古■

朝鮮半島との関係を示す
垂飾付耳飾

6月6日(日)まで（一部は5月30日(日)まで）　平成館　考古展示室

今、考古展示室では、垂飾付耳飾と呼ばれる耳飾をたくさん見ることができます（展示は3箇所にわかれています。通史展示〈倭の五王の時代・古墳時代Ⅲ〉～5月30日、テーマ展示〈金属製の装身具〉～6月6日、〈王者の装い〉～6月6日）。多くは金製、稀に銀や金銅製で、耳につける環に、1～数条の精巧に作られた垂飾がつく耳飾です。垂飾の下がる鎖の長いものと短いもの、鎖のないものがあり、長いものには、写真のようなたいへん手の込んだものもみられます。朝鮮半島で同様の耳飾が多数出土していることから、日本列島出土品も半島製あるいは半島の工人が日本列島で作ったものと考えられ、これらが作られた五世紀後半～六世紀前半の国際関係を研究する上でも重要な資料です。なお、東洋館第10室で、朝鮮半島の耳飾を展示していますので、合わせてご覧ください。

（安藤廣道）

◎金製垂飾付耳飾
奈良県橿原市
新沢千塚126号墳出土
古墳時代・5世紀
垂飾に小さな円板飾りをたくさんつけた、最もきらびやかな耳飾

■中国書画■

名品選の上梓にあたって
特集陳列「定静堂コレクションの中国書画」

6月8日(火)～7月4日(日)　東洋館第8室

林家は清朝の乾隆四十三年（一七七八）に、福建から台湾に移り、十九世紀の中葉には全盛期を築いた、台湾屈指の名家の一つです。台北市の郊外に残る林家の庭園は、清朝末期における福建地方の造園の粋を尽くした建造物として、現在も一般に公開されています。

林本源家の伝統を受け継ぐ林宗毅氏は、学問芸術に造詣が深く、実業家としてご活躍されるかたわら、明清時代から現代を中心とする中国書画を熱心に収集されてきました。そのご愛蔵の書画は、祖居の楼閣の名を冠し「定静堂コレクション」としてしられ、東京国立博物館をはじめ、和泉市久保惣記念美術館や台北故宮博物院に寄贈されています。今春、それらの愛蔵品をまとめた『定静堂中国書画名品選』が上梓されることとなり、これを記念して、定静堂コレクションの中国書画を特集陳列いたします。どうぞご高覧ください。（富田　淳）

任頤筆九老図
清時代・光緒9年（1883）
高さが2.5mおよぶ大作

はくぶつかん散歩 8

寛永寺本坊正門と因州江戸屋敷表門

黒門

ずいぶんと昔、学問の世界で、赤門派と黒門派と並び称された集団があったそうです。赤門派はいうまでもなく東大。黒門派は、ではどこでしょう。そうお察しの通り、帝室博物館でした。この黒門は当時、帝室博物館の正門として利用されていた寛永寺本坊の正門のことです。昭和十一年（一九三六）に寛永寺に下賜され、現在は重文に指定されて両大師にあります。

いま、博物館の黒門とよびならわしているのは正門の西側にある武家屋敷門ですね。もと鳥取藩（因州藩）三十二万石池田氏の江戸屋敷の表門で、幕末に建てられたものといわれ、大名の最高の格式を示す門だといいます。もとは丸の内大名小路の一角（現在の文部省ビルのあるあたり）にありましたが、明治二十四年（一八九一）、芝・高輪の東宮御所の正門として移築、その後高松宮邸に引き継がれました。戦後、国有となり、昭和二十六年重文に指定され、翌年東京国立博物館に移管となりましたが、工事がすべて終わったのが二十八年でした。黒門は東京国立博物館を代表する建造物として広く親しまれていますが、黒門派ということばが使われなくなったのはさびしいですね。

（上野仁哉）

旧博物館の正門　今は寛永寺の門に

現在、博物館の黒門として皆さんに親しまれている旧因州江戸屋敷の表門。土曜・日曜は、ここを通ってお帰りいただくことができます

江戸教養人の知的遊び

「ものがたりの絵画」

「文化」で生きる公家の誇りと、「文化」に対する武家や町人の憧れがつくった、絵画の不思議な一ジャンル、近世における「ものがたりの絵画」に焦点をあてます。

講師　松原　茂
東京国立博物館 上席研究員
「世の中に たえて桜の なかりせば…」

ものがたりの絵画の誕生

日本の絵画には、ものがたりや説話を題材に描かれたものがたくさんあります。皆さんご存じの「源氏物語絵巻」がそうですね。ほかにも「伴大納言絵巻」や「信貴山縁起絵巻」など、ものがたりの世界をドラマの進行にしたがってダイナミックに描いた作品は、日本絵画史が世界に誇るべき一ジャンルといえるかもしれません。

そもそも、ものがたりの絵画の始まりはいつ頃まで遡ることができるのでしょうか。歌物語や歌に関連した説話を集めた平安中期の『大和物語』にこんな話が載っています。

「歳のころも姿形もそっくりなふたりの男性から求愛された乙女が、どちらを選ぶか悩んだ末に入水して死んでしまいました。そのものがたりを絵に描いて、宇多天皇の皇后、温子（八七二～九〇七）に奉ったところ、皇后の女房たちはその絵を見ながら、登場人物になりかわって歌を詠みました」というものです。

これによって、九世紀の後半か、遅くとも十世紀の初めにはものがたりを絵にすることが行われていたこと、またものがたりと絵、絵と和歌が密接に結びつき、人々はイメージの世界に遊びながら絵画や和歌を楽しんだことがわかります。

その後も、鎌倉、室町から江戸時代まで、ものがたりの絵画化は連綿と続けられていきました。

ものがたりからモチーフへ

特に近世初期、戦国時代が終わりを告げると武士たちも文化に目を向けるようになりました。公家は、生活の糧を得るために彼らの高い文化的水準を売り物にして、すでに室町時代から、大名家お抱えの身分を得るものがあらわれます。それがいつか家業のようなかたちになって蹴鞠、和歌、書道などそれぞれの家が専門の看板を掲げるようになります。いきおい古典文学にも注目が集まり、ものがたりの絵画はますます盛んに描かれるようになりました。そして、もともとは絵巻や冊子絵など絵画と文字が混在していたものが、絵だけが独立して描かれるようになったのです。ものがたりのある一場面を抜き出して一枚の絵にしたもの、単なる風景画や風俗画に見えて、実はあるものがたりをもとにして描かれた作品など、知っている人だけが何のものがたりなのかわかる、そんな絵がたくさん描かれるようになりました。人々はそれが「わかる」ことに、知的喜びやステータスを感じていたようです。

ものがたりを題材にした絵画で今日もっとも多くの作品が残っているのはやはり『源氏物語』でしょう。しかし、源氏五十四帖をみんなが読みこなしていたわけではありません。各段の表現はパターン化され、室町時代にはすでに、このモチーフが描かれていたらこの段、とエッセンスを要領よくまとめた手引書まで作られています。

そこで今回は、江戸時代に描かれたものがたりの絵画に焦点をあててみることにしました。

伊勢物語の絵

『源氏物語』に次いで数多く描かれた『伊勢物語』を見てみましょう。

梅の花を眺めてなにやら物思いにふける男を描いたこの絵（写真1）は、江戸時代に土佐派を再興した土佐光起によるもの。男は在原業平。この邸に住んでいた女のもとに通っていたのですが、一年前の早春、女は遠いところへ行ってしまったのです。思い出の邸を訪ねた男は「月やあらぬ　春や昔の春ならぬ　わが身ひとつはもとの身にして」と歌を詠む、伊勢物語第四段「西の対」の場面です。詞書と絵が交互にある絵巻物とは違って、この絵では、鑑賞者がこの切ない恋の話を知っていることが前提となっていることに注目しましょう。

次に尾形光琳の「八橋図」（写真2）をご覧ください。橋と燕子花といえば、皆さんもおわかりかと思います。伊勢物語の第九段「東下り」の八橋ですね。三河の国八橋で、在原業平が「唐衣　着つつなれにしつましあれば　はるばるきぬる旅をしぞ思う」と詠み、一同が涙したという有名な場面です。光琳はこの八橋がたいへんお気に入りだったようで、いくつもの傑作を世に残しています。当館の八橋蒔絵螺鈿硯箱（写真3）もそのひとつですが、この二つの作品を比較するとちょっと面白いことに気付きます。この絵では、業平の一行と橋、そして燕子花の花が描かれており、いわばものがたりの絵解きのようです。これに対して硯箱では、人物はいっさい描かず、橋と燕子花を大写しにしています。もうひとつの光琳の傑作、根津美術館所蔵の「燕子花図屏風」では、橋さえなくなって燕子花が画面いっぱいに繰り返し描かれています。燕子花だけで、業平のものがたりをよみとり、ものがたりのイメージを広げながらこの絵を楽しめる、そんな人々が存在していたことがわかります。

業平歌意図　部分（写真1）　土佐光起筆　江戸時代・17世紀
この絵を見て「月やあらぬ　春や昔の…」の歌が思い浮かぶ人、いますか？

見立芥川図（写真4）
菱川師平筆　江戸時代・18世紀
若侍と遊女が登場する伊勢物語。浮世絵では見立ての手法がしばしば用いられた

◉八橋蒔絵螺鈿硯箱　部分（写真3）
尾形光琳作　江戸時代・18世紀
（5月11日～6月30日　本館第2室にて展示予定）　写真2、3ともに光琳による伊勢物語「東下り」の意匠

八橋図　部分（写真2）
尾形光琳筆　江戸時代・18世紀

見立ての遊び

物語の記号化がさらに進んだ例が、菱川師平の「見立芥川図」（写真4）です。高貴な娘に恋焦がれた男がある日娘を誘拐して連れ去りました。ようやくたどりついた芥川のほとりで、なんと娘は鬼に食われてしまったというお話の絵です。

ところで、伊勢物語が江戸時代に数多く描かれるようになったのは、嵯峨本「伊勢物語」の刊行が大きな影響を及ぼしたものと思われます。嵯峨本とは、江戸時代の初め、慶長から元和年間にかけて京都の嵯峨で光悦らによって制作された美しい版本です。嵯峨本の芥川の段では、女を背負って走る男と川、そして柳の木が描かれています。原典には、「女を率て（つれて）いきければ」とあるだけなので、背負ったかどうかはわかりませんし柳の木も登場しません。しかし、「芥川」が絵になるときはたいてい、女を背負う男と柳がセットになっています。ものがたりの主題が繰り返し絵画化され、さらに嵯峨本のような版本が世に出るにいたって一定のパターンができあがっていったのでしょう。

「見立芥川図」はこの場面を当世、つまり江戸時代の男女におきかえて描いた見立ての手法による作品です。若侍が背負っているのは吉原の遊女でしょうか。女を苦界から助けだし、駆け落ちする場面のようです。伊勢物語からは遠くかけ離れた世界に見えますが、人々は一本の柳によって、これが芥川だとぴんときたわけです。

日本の文化には、和歌の本歌取りの手法に代表されるように、なにかほかの作品を利用してそれによってイメージを膨らませるという伝統があります。もとの心から離れていく面は多分にありますが、また違った展開を楽しむ面白さもあるわけです。

公家の誇りを託して

次に、「栄花物語図屏風」（写真5）をご覧いただきましょう。「栄花物語」は十一世紀に成立した歴史物語で、平安時代初期の宇多天皇から後期の堀河天皇まで、十五代約二〇〇年の歴史を記しています。とくに藤原道長の栄耀栄華を描いた部分が有名です。屏風は右隻が巻第一、村上天皇の「月の宴」を、左隻が巻第八「初花」を描いています。いずれも原典に忠実にものがたりの場面を再現しています。

「月の宴」は江戸城の障壁画にも採用されており、武家の生活空間にこうした公家風の絵が取り入れられていたことがわかります。公家は武家に対して、文化の面で優位に立とうとして、嫁入り道具などにこうした王朝ものがたりの絵を持たせることが多くありました。この屏風もお産の場面があることから、嫁入り道具だった可能性が高いといえるでしょう。

近世のものがたりの絵画は、王朝の栄華を懐かしむ公家の思いと、それに対する武家の憧れ、ともすると教養のひけらかしに陥りそうな知的遊びの要素がからまった独特のジャンルです。そういった背景を知ってみると、私たちもまた、ものがたりの絵を何倍か面白く見ることができるのではないでしょうか。

（構成　小林　牧）

栄花物語図屏風（写真5）　6曲1双のうち左隻「初花」土佐光祐筆　江戸時代・17～18世紀
一条天皇の敦成親王に産湯を使わせる場面。もののけを追い払おうと弦を打つ武官、産湯の儀式で使う虎の頭を手にした女房、生まれたばかりの孫を抱く道長など原典に忠実にお産の前後の様子を描いている

特集陳列
「ものがたりの絵画」
4月20日（火）～5月30日（日）
本館第18室
日本美術の流れ
「桃山・江戸　II」

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年（入会月の翌年同月末日まで）有効

賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります

年会費

特別会員　100万円以上
維持会員　法人　20万円
　　個人　5万円

特典

●特別展の特別内覧会にご招待
●国立博物館ニュースの送付

＊賛助会員のお申し込みは随時受け付けています

＊ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員（TNM Members）入会申込書をお送りします

＊お問い合わせは
東京国立博物館営業開発部
賛助会担当
TEL03－3822－1111（代）

東京国立博物館賛助会員　平成16年4月4日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社 コア 様
明治安田生命保険相互会社 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
NHK 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
東日本電信電話株式会社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様
斎藤 京子 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
株式会社 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
簸内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
日本通運株式会社 美術品事業部 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
和田 喜美子 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
株式会社 光彩工芸 様
上久保 のり子 様
寺本 明男 様
櫛田 良豊 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様

〈ほか4名2社、順不同〉

◆コンサート開催のお知らせ

初夏に贈る名曲の調べ

おなじみの名曲を、胸に染みる美しいバリトンでお届けします。

日　時　6月7日（月）　開場18時30分（19時開演）
会　場　東京国立博物館　平成館ラウンジ
主　催　東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
出　演　大貫史朗（バリトン）
　　鈴木綾子（ピアノ伴奏）
演奏曲
・ガンジス川より陽は昇り（スラルラッティ）
・この道（山田耕筰）
・荒城の月（滝廉太郎）
・忘れな草（クルティス）
・オペラ「椿姫」より
‘プロヴァンスの海と陸’（ヴェルディ）
・帰れソレントへ（クルティス）
・カタリ「つれないこころ」（カルディルロ）
・オペラ「ゼヴィリアの理髪師」より
‘私は町のなんでも屋’（ロッシーニ）
料　金　5000円（平常展入場券付）

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売り場でチケット販売

受　付　開館日の9時30分～16時30分
ただし、特別展開催期間中の金曜日は19時30分まで、土・日・祝・休日は17時30分まで

●電話予約販売

申込先　東京国立博物館渉外課　TEL03－3821－9270
受　付　9時30分～17時（月曜～金曜）
＊チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにてお渡しします
引換時間　9時30分～16時30分（開館日のみ）
ただし、特別展開催期間中の金曜日は19時30分まで、土・日・祝・休日は17時30分まで、コンサート当日は18時から開演時間まで引換可能です

ファミリーコンサート

昨年7月、平成館でのファミリーコンサートが好評だった東京クラリネット・クワイアーの再演。

日　時　7月19日（月・祝）
　　第1部　午前11時～　　第2部　午後14時～
会　場　平成館ラウンジ
出　演　東京クラリネット・クワイアー　　指揮　稲垣征夫
　　＊無料（ただし当日の入館料は必要です）

◆5月18日は国際博物館の日

5月18日㈫は国際博物館の日です。当館ではこれを記念して講演会などを行います。ふるってご参加ください。

5月15日㈯　13時30分～15時（13時開場）平成館大講堂
国際博物館の日記念講演会
「博物館の展示とデザイン－世界と日本の違いから」
当館デザイン室主任研究員　木下 史青
＊聴講無料（ただし、入館料は必要です）

5月23日㈰　14時～15時40分　平成館大講堂
国際博物館の日記念イベント
まち歩きの達人による講演と、無形文化財「東流二絃琴」による演奏
第1部　講演会　講師　坂崎 重盛（エッセイスト）
第2部　琴演奏　東流二絃琴（台東区無形文化財）
※参加費　五〇〇円（電話予約は、渉外課イベント担当TEL03－3821－9270まで）
いずれも　定員三八〇名、先着順

◆臨時休館と本館一時閉館のお知らせ

6月15日㈫は施設点検のため臨時休館させていただきますので、ご注意ください。

また、本年秋には本館の全面リニューアルを計画しています。これに伴う改装工事と展示作業のため、**7月1日㈭～8月31日㈫は本館を閉館**させていただきます。閉館中は皆様にたいへんご迷惑をお掛けしますが、どうかご了承くださいますようお願い申し上げます。

本館閉館中は、平成館1階で「日本美術の精華」展を、表慶館では奈良・薬師寺の吉祥天像の特別公開を実施いたします。

9月1日の本館リニューアルオープンにぜひご期待ください。

◆開館時間が変わりました

平成16年度より、夏期の週末は開館時間を1時間延長し、ゆっくりじっくり美術を楽しんでいただけるようになります。

通常の開館時間は9時30分～17時ですが、**4月～11月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月～9月の土・日・祝・休日は18時まで開館**します。いずれも入館は閉館の30分前までです。

東京国立博物館友の会＆パスポート

友の会　**年会費 1万円 発行日から1年間有効**

特　典　東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催などさまざまな特典があります

パスポート　**一般 3000円 学生 2000円**
発行日から1年間有効

特　典　東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名（振替先）　東京国立博物館友の会
口座番号　00160－6－406616
金　　額　1万円

＊振替用紙には職業・年齢・性別・メールアドレス・ご希望のプレゼント番号（下記①～④の中からお選びください）を楷書でご記入ください
①双筆箋『秋冬山水図』　②双筆箋『夏秋草図屏風』
③一筆箋『見返り美人図』　④クリアファイル＆浮世絵ボールペン

パスポート

加入者名（振替先）　東京国立博物館パスポート
口座番号　00120－3－665737
金　　額　一般3000円、学生2000円

＊振替用紙には申込区分（一般か学生）、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
＊振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
＊振替手数料はお客様の負担となります

◆お問い合わせ
渉外課　友の会・パスポート担当
TEL 03－3822－1111（代）

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間（6冊分）1000円の送料・事務費のご負担でお届けします

◆お申し込みは郵便振替で
加入者名（振替先）　東京国立博物館ニュース
口座番号　00100－2－388101

＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を楷書でご記入ください
＊お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください
＊振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
＊振替手数料は申込者のご負担となります
＊次号より送付ご希望の場合、締め切りは6月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間： 9時30分～17時、4月～11月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月～9月の土・日・祝・休日は18時まで（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日： 毎週月曜日（祝日、休日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月1日）。ゴールデンウイークおよび夏休み期間（7月20日～8月31日）は原則として無休、2004年6月15日は臨時休館

平常展観覧料金
一般420（210）円、大学生130（70）円
＊（　）内は20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
＊満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください

TOPICS

◆2004年秋、本館本格リニューアルに向けて

2004年9月1日の本館本格リニューアル、グランド・オープンに向けて、現在急ピッチで準備が進められています。

昨年のリニューアルで試みた時代別展示「日本美術の流れ」が来館者のアンケート調査でもおおむね好評だったため、二階部分はこの方向をもう一歩推し進め、平安時代は「仏教の興隆」、室町～鎌倉時代は「禅と水墨画」など時代ごとに明確なテーマを設定、各時代の特徴をつかみやすくします。一階は、仏教彫刻や陶磁、漆工など分野別の体系をのこしつつ、部屋の構成を大きく変えて、ドラマチックな展開を演出します。また、昨年のリニューアル以降、展示作品の点数が減ったとお叱りの声が多い絵画に関しては、特別第3室、特別第4室でテーマ展示を行います。質・量ともにより充実した平常展になると思います。現在は、展示プランの確定とデザイン作業を進めている段階です。さらに館内サインやインフォメーションの見直しも始まっています。本誌次号では、グランド・オープンのより具体的な情報をお知らせします。

日本美術の殿堂　本館

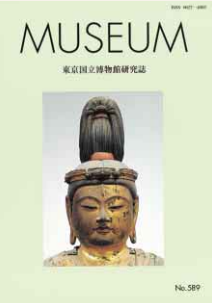
◆『MUSEUM』589号（平成16年4月15日発行）の掲載論文

①「新出の大日如来像と運慶」
山本　勉（当館教育普及室長）

②「裸形着装像の成立」
奥　健夫（文化庁）

③「ヘインド・マトゥラー彫刻展」「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」の展示・照明デザインと輝度分布測定による見え方の考察」
木下史青（当館デザイン室）

＊購読のお問い合わせは
当館ミュージアムショップ
TEL03－3822－0088まで



Who's Who in 東博

相手の立場での応対を心がけています

電話交換台
望月芳子、伊藤弘子

博物館の代表番号にかかってくる電話の応対をしています。二人ともNTT（旧電電公社）の電話交換手の資格を持っており、オペレーターとして望月は平成元年、伊藤は平成二年から博物館に派遣されています。

平成二年に「日本国宝展」が開催されたのは、博物館で仕事をするようになってまだ日が浅い頃でしたが、次から次へと一日中電話が鳴りっぱなしで土日も出勤、応対に追われたものです。平成館が竣工してすぐ三階にある現在の交換室に移動、誰よりも早くこの建物で働きはじめました。この部屋の窓からは中庭が望めご来館のお客様の様子がみえます。特別展の会場のすぐ上ですので混雑具合のご案内の際など便利です。収蔵品の中でお問い合わせが多いのは等伯の「松林図屏風」について。しばしば展示の予定のお尋ねがあります。また、景気を反映してか最近特に企業からの営業案内のお電話が増えました。毎日たくさん受ける電話は相手も用件もさまざまですが、話し方や言葉遣いに気をつけ、常に先方の立場で、落ち着いてわかりやすい応対を心がけています。

東京国立博物館ニュース 第665号 平成16年5月1日発行（隔月1回 奇数月発行） 編集／東京国立博物館広報室 ©東京国立博物館
発行／東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL03-3822-1111（大代表） ＊ホームページ〈URL〉http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ〈URL〉http://www.NatMus.jp/ 制作・印刷／㈱DNPアーカイブ・コム

東京国立博物館 5月・6月の展示・催し物

2004年5月

1	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 14:30
2	SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
3	MON	時間延長(18:00まで)
4	TUE	時間延長(18:00まで)
5	WED	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
6	THU	休館日
7	FRI	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
8	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00
9	SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
10	MON	休館日
11	TUE	列品解説「ものがたりの絵画」 14:00 本館第18室
12	WED	14:00 14:30 15:00
13	THU	14:00
14	FRI	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
15	SAT	月例講演会「博物館の展示とデザインー世界と日本の違いから」 時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 14:30 15:00 13:30 平成館大講堂
16	SUN	「空海と高野山」最終日 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
17	MON	休館日
18	TUE	平成15年度新収品 列品解説「中国古代の灰釉と緑釉」 14:00 東洋館第5室
19	WED	14:30 15:00
20	THU	14:00
21	FRI	14:30
22	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00
23	SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 ※1国際博物館の日記念イベント 14:00 平成館大講堂
24	MON	休館日
25	TUE	新たな国民のたから 列品解説「旧拓名帖」 14:00 東洋館第8室
26	WED	14:00 14:30 15:00
27	THU	14:00
28	FRI	14:00 14:30
29	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00 テーマ別講演会"日本の水墨画"第1回「初期水墨画から詩画軸」 13:30 平成館大講堂
30	SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
31	MON	休館日

2004年6月

1	TUE	列品解説「外国の鉄で作った日本刀」 14:00 本館第5室
2	WED	※3 公開講座"日本美術人物列伝シリーズ(中世編)"第1回「運慶」 14:00 14:30 15:00 資料館2階セミナー室
3	THU	14:00
4	FRI	14:00 14:30
5	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 14:30 15:00
6	SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
7	MON	休館日 ※2 初夏に贈る名曲の調べ 19:00 平成館
8	TUE	列品解説「桃山の能書人々」 14:00 本館第17室
9	WED	14:30 15:00
10	THU	14:00
11	FRI	14:30
12	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00 月例講演会「アイヌ文化史入門」 13:30 平成館大講堂
13	SUN	時間延長(18:00まで) 14:30
14	MON	休館日
15	TUE	臨時休館日
16	WED	14:00 14:30 15:00
17	THU	※4 公開講座"日本美術人物列伝シリーズ(中世編)"第2回「雪舟」 14:00 資料館2階セミナー室
18	FRI	14:00 14:30
19	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 14:30 15:00
20	SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
21	MON	休館日
22	TUE	列品解説「マトゥラーの美術」 14:00 東洋館第1室
23	WED	14:00 14:30 15:00
24	THU	14:00
25	FRI	14:00 14:30
26	SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00 テーマ別講演会"日本の水墨画"第2回「周文から雪舟」 13:30 平成館大講堂
27	SUN	「新たな国民のたから」最終日 「平成15年度新収品」最終日 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
28	MON	休館日
29	TUE	
30	WED	※5 公開講座"日本美術人物列伝シリーズ(中世編)"第3回「土佐光信」 14:00 14:30 15:00 資料館2階セミナー室

※1、2は有料イベントです（詳しくは本誌14ページをご覧ください）。
※3～5は事前申込み制です（詳しくは本誌7ページをご覧ください）。
＊上記の予定は予告なく変更になることがあります。
当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください。

＝ボランティアによる樹木ツアー 場所：前庭内
＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド 場所：本館1F
＝ボランティアによる本館ハイライトツアー 場所：本館
＝ボランティアによる陶磁室エリアガイド 場所：本館1F
＝ボランティアによる考古展示室ガイド 場所：平成館考古展示室
＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイドツアー 場所：法隆寺宝物館

〈京都国立博物館〉 5月16日（日）まで
亀山法皇700年御忌記念特別展「南禅寺」

〈奈良国立博物館〉 4月24日（土）～6月13日（日）
特別展「法隆寺ー日本仏教美術の黎明ー」